

子どもの排泄についての実態調査 報告書

北九州市保育士会 会長 北野久美

【はじめに】

平成25年の保・幼・小連絡会において、小学校より「授業中に排尿に行く子どもが少なからずおり、失敗してしまう子どももいる。就学に際して排尿の自立のできていない子どもが増えているのではないか」との意見が報告された。このことを受けて北九州市保育士会では、北九州市の保育所（園）における子どもの排尿の実態を調査し、排尿の自立が通常通り確立されているか、排尿の自立に向かう過程の保育者の働きかけや保育環境の違いが自立にどのような影響を与えているかについて、考察することとした。

【調査方法】

調査基準日	平成26年10月1日
調査施設	市内全認可保育所（園） 162所（園）
調査対象児	平成26年4月1日現在の2歳・3歳・4歳・5歳児12,163人
調査方法	①各園に依頼して排尿に関するアンケート調査を行う ②平成26年10月20日～31日の間、調査対象の各保育園に依頼し、2～5歳児各年齢につき1日9時～16時の間、主任保育士やフリー保育士などが排尿の参与観察・記録を行った

【仮説】

- ① 3～4歳で排尿習慣が自立すると言われているが、北九州市内の保育所（園）に通う子どもも基準通りに自立しているであろう。
- ② 保育所（園）によって排尿に関する保育者の働きかけ、人的環境や保育方法、保育者の意識が違っていることが、排尿の自立に影響しているであろう。

【考察】

観察研究による記録物分析

①仮説について

北九州市の保育所（園）に通う子どもたちは、平均32.98か月（ほぼ2歳9か月）で昼の紙パンツが取れ、3歳で65%、4歳で98%、4歳6か月でほぼ全員が日中パンツで過ごすようになる。5歳児（60か月以上）で昼間の紙パンツが取れていない子どもがごく少数ながら一定数（総数4594人に対して15人0.3%）いた。調査付記によるとその中の6人は軽～重度の障害がある子どもであったが、9名についてはわからない。

また昼間に尿意を伝えられない子どもが、2歳台では473人（34.6%）であるが、3歳台では285人（9.3%）、4歳台になると70人（2.3%）と激減し、その後の5歳台では45人（1.5%）、6歳台では20人（1.2%）とゆるやかな減少となっている。

尿意を伝えるが間に合わないことがある子どもが、2歳台では229人（26.0%）、3歳台では330人（12.0%）いるが、4歳台では189人（6.3%）、5歳台になると82人（2.8%）、6歳台29人（1.8%）に減少する。

②仮説について

*家庭環境（きょうだい数）について

*保育歴について

【男女差】

- ・トイレ環境について
- ・排尿方法について

【排尿へのかかわり方】

- ・排尿対応について
- ・排尿対応の理由による、回数や間隔の違いについて 等…分析中